

豊田市の市民意識調査データを用いた生活環境整備達成度の経年変化分析

名城大学理工学部 伊東 裕晃
名城大学理工学部 正会員 松本 幸正
名城大学理工学部 正会員 栗本 譲

1.はじめに

財源制約が厳しい中、住民の意識を的確に捉えた社会基盤整備を行うことが不可欠となっている。そのような中、多くの自治体で住民に対し意識調査を行っているが、結果としては、単純集計のみが多く、分析が行われているところは少ない。本研究では、豊田市が現在までに実施してきた市民意識調査結果を用いて、住みやすさの評価に影響を与え、住民の満足度の高い項目を定量的に明らかにする。また、住みやすさの評価に影響を与えながらも、住民の満足度が低い項目も明らかにし、経年的に分析することで今後整備すべき生活環境要因の位置付けを定量化する。

2.豊田市における市民意識調査について

豊田市は、現在までに14回、市民意識調査を実施している。主な内容として、豊田市の住みやすさや生活環境を聞く項目がある。本研究では、豊田市を猿投、挙母、高橋、高岡、上郷、松平の6地区に分類し、第10回（平成2年）～第14回（平成14年）までの市民意識調査結果を用いて分析する。

豊田市を住みやすいと答えた人の割合と住みにくいと答えた人の割合の比を住みやすさの満足指標とし、図1にその経年変化を示す。全ての地区で1を超えていることから、豊田市を住みやすいと答えた人は、住みにくいと答えた人より多いことがわかる。

3.生活環境整備達成度と未達成度

市民意識調査結果の住みやすさを外的基準にとり、表1に示す15の生活環境要因を説明変数とし、数量化理論Ⅱ類によって分析を行った。その結果を用いて、生活環境整備達成度¹⁾を算出した。

生活環境整備達成度と未達成度は、影響度と満足度から算出される指標である。ここで、影響度とは、生活環境要因の評価が、住みやすさの評価に及ぼす影響の強さを表わす指標のことである。生活環境要因を良いと答えた場合に、住みやすくに強く影響を与えているものを、影響度が高いという。また満足度とは、生活環境要因を良いと答えた人の割合と悪いと答えた人

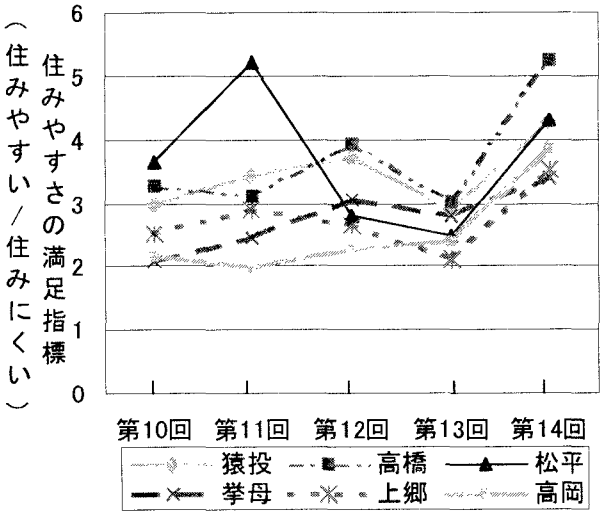


図1 住みやすさの満足指標経年変化

表1 15の生活環境要因

	項目名	略
1	自治区活動	自治
2	近所との付き合い	近所
3	近くの夜道の明るさ	夜道
4	治安のよさ	治安
5	空気のきれいさ	空気
6	雨水・汚水の水はけ	雨水
7	工場の振動・騒音からの静けさ	工場
8	緑・自然の豊かさ	自然
9	公園・広場への近さ	公園
10	子供の遊び場の状態	子供
11	道路の改良・舗装の状態	道路
12	バスの便利さ	バス
13	歩行のための道路の安全さ	歩行
14	通園・通学の便利さ	通学
15	病院・診療所への近さ	病院

の割合の差のことである。生活環境整備達成度が高いということは、その生活環境要因が住みやすさの評価に大きな影響を与え、かつ住民の満足度が高いということを表わしている。また、逆に生活環境整備未達成度が高いということは、その生活環境要因が住みやすさに与える影響は大きい、住民の満足度が低いということを表わしている。

図2に第14回における全地区の生活環境整備達成度の高いものを順に5つ示した。どの地区にも「近所」, 「自然」, 「自治」があることがわかる。これらの項目は、地区特性に関係なく、住みやすさの評価に与える影響が大きく、満足度が高いということを表わしている。また高岡地区では、達成度の絶対値が他の地区に比べ低くなっている。生活環境要因の満足度は他の地区とあまり変わらないが、住みやすさの評価に大きく影響を与えている生活環境要因がないためである。

図3に第14回における全地区の未達成度の高いものを順に5つ示した。挙母、高岡、高橋、上郷地区では「バス」の未達成度が他の項目に比べて高くなっている。このことから、「バス」は住みやすさの評価に大きな影響を与えているが、他の項目より不満と感じている人が多いことがわかる。したがって、バスの整備を行うことは、住みやすさの評価を良くすることにつながることになる。

4.生活環境整備達成度経年変化

図4に挙母地区における第10回～第14回までの達成度経年変化を示す。未達成度は正の値として定義したが、達成状態から未達成状態への変化をとらえるため、ここでは負の値とした。図4では達成度の変化の幅の大きい項目と小さい項目をそれぞれ3つずつとりあげた。「通学」、「空気」は第14回で大きく減少しているが、この原因は、住みやすさの影響度は増加しているものの、満足度の割合が減少し、どちらでもないと答えた人の割合が増加したためである。またこのことは、14回の全項目に関していえる。「子供」、「夜道」、「歩行」は経年的な変化が少ないことから、これらの項目の評価は変わらず、住みやすさへの評価に影響があまりないことがわかる。「バス」は第10回では達成されていたが、第11回では未達成となり、それから年々減少している。このことから「バス」に不満をもつ人が年々増加し、住みやすさの評価へ悪影響を及ぼしていることがわかる。したがって、挙母地区では「バス」を整備することが最重要課題といえる。

5.おわりに

本研究では、豊田市における市民意識調査結果を用いて、生活環境整備達成度と未達成度を定量化し、経年的に分析することで、「近所」「自治」、「自然」は全地区で達成度が高く、「バス」は全地区で未達成度が高いということがわかった。今後は、実際の社会基盤整

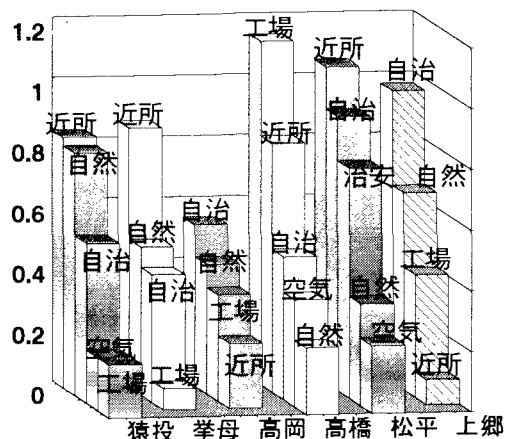


図2 生活環境整備達成度 (第14回)

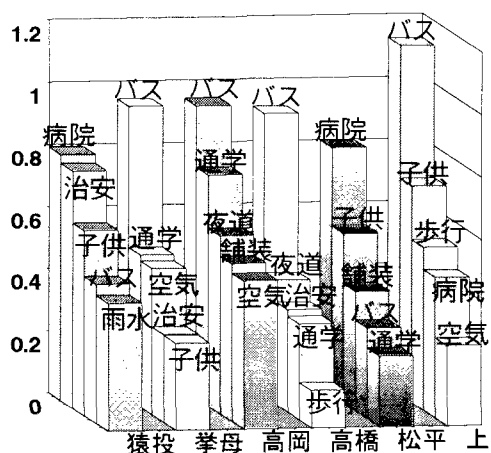


図3 生活環境整備未達成度 (第14回)

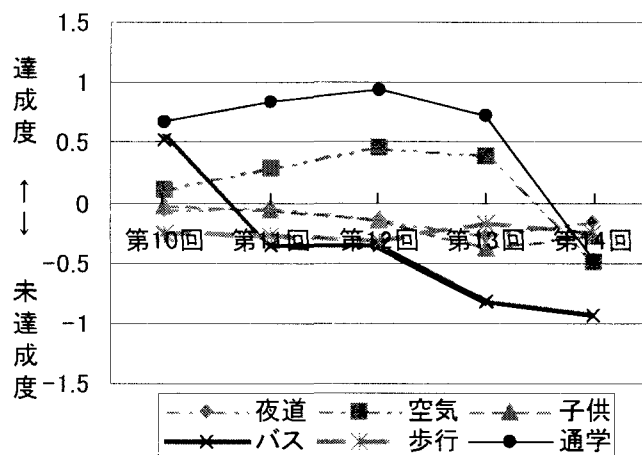


図4 生活環境整備達成度経年変化 (挙母地区)

備状況と生活環境整備達成度、未達成度の関係を分析していく必要がある。

<参考文献>

- 1) 吉川・松本・栗本：豊田市における生活環境整備の達成度に関する定量的分析，第57回土木学会年次学術講演会講演概要集 (CD-ROM) ,2002